

# がれき受け入れ 避難家族が反対

## 四日市市長に要望

### 安全性確保されず

【四日市】東京電力福島第一原発事故を受けて四日市などに疎開している住民の団体が二十五日、安全性が確保されていないとして、東日本大震災のがれきを受け入れないよう田中俊行四日市市長に要望した。



がれきを受け入れないよう求める関係者＝四日市市役所で

要望したのは東北、関東地方から避難した約十五家族による「疎開者ネットワーク三重」。小林真美代表（むら）三家族と支援者が要望書を市役所で手渡した。福島県鏡石町から子ども三人と四日市に疎開した小林氏は健康被害を懸念し、「がれきの受け入れだけが被災地支援ではない。片付けより人への支援だ」と強調。受け入れ拒否に加

### 被災者支援団体も反対

### 「放射能ない環境を」

#### 大紀町村会会長に要望書

【度会郡】県と市市長会、県町村会が震災がれきの受け入れを事実上合意したことに對し、反対している伊勢市の「ふくしまいせしまの会」代表の看護師上野正美さん（むら）三人が二十五日、大紀町滝原の同町役場を訪れ、県町村会長を務める谷口友晃町長に、「震災がれき受け入れ反対要望書」を提出した。谷口町長は不在のため、代わって大堀拓也町長室長と上村公正副室長が受け取り、「谷口町村会会長に報告す」と答えた。上野代表は、伊勢志摩地方の九団体約百人を代表しているとし、「福島近隣の母子を伊勢志摩地方に呼び、少しでも放射能の心配をせずに遊べる環境を提供してきたが、そのお母さんたちから、三重県はがれきを受け入れないでくれとの声を聞いている」として、「がれきを受け入れる予定があるなら、福島から出たかと思っっている人を受け入れてほしい」と要望した。上野さんらは昨年夏から

え、県、市長会、町村会が二十日に表明した受け入れ方針の撤回を要望書で求めた。田中市長は「四日市市も何らかの形で被災地復興に協力をしたいが、皆さんの気持ちも重く受け止める。少なくとも抽選は避けるべきだ」と述べるにとどめた。



谷口県町村会会長（代理）に震災がれき受け入れ反対を要望する上野代表ら（左から二人目）＝大紀町滝原の役場で

る。「がれきの放射線量はサンプリングでは測れない」と、受け入れを中止するよう求めた。町側は「町内に処理施設がないので、町長が発言するのは難しい」と答えた。上野さんは「菅原発計画を止めてくれた地元の人に感謝している」とも述べた。県によると、福島など東北、関東地方から県内への避難者は四百十三人になるという。

### 市長会会長にも 名張

【名張】東日本大震災の被災者を支援する市民団体「ふくしまいせしまの会」（上野正美代表）は二十五日、県市長会会長の亀井利克名張市長宛てに、震災で発生したがれきを受け入れないよう求める要望書を出した。この日、上野代表（むら）が市役所を訪れ、亀井市長の代理で出席した菅生治郎秘書室長に要望書を手渡した。上野代表は「放射線のない美しい環境を守るため、がれきではなく人を受け入れてほしい」など重要請。菅生室長は「いただいたご意見は、市長に伝えさせていただきます」と話した。亀井市長は「県と市町で検討するガイドラインの策定待ち、各市が広域処理について検討するものも考えている。安全性の問題については、住民の理解が得られるよう、国に十分な情報公開、説明責任を果たすよう引き続き県と共に求めていく」とコメントした。要望書は、震災が発生したがれきの広域処理について、「放射能から逃れて保

同団体は昨年十一月に発足し、会員は三人。被災地市内で開くキャンプに招き、これまでに約三十人が訪れたという。